

京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学コース
保存再生学シンポジウム2020

主催 京都工芸繊維大学大学院建築学専攻 / 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
後援 一般社団法人日本イコモス国内委員会 / 一般社団法人 DOCCOMOMO Japan / 公益社団法人日本建築家協会

Theme

歴史的建築物の保存再生デザインを考える ——京都市京セラ美術館を手がかりに



京都市京セラ美術館 (撮影 | 笠原一人)

Schedule

13:30-17:00, Saturday 6 March, 2021
2021年3月6日[土] 13:30-17:00

Venue

Online only, broadcast address will be given to applicants only later
オンラインによる開催 / アドレス等は参加者にのみ後日お伝えします

Summary

2020年、京都では、東京オリンピック開催を前にして、近代建築を中心とした複数の歴史的建築物の改修プロジェクトが竣工を迎えた。しかし、歴史的価値を守りながら創造的なデザインで手を加える方法は様々で、その評価も様々である。歴史的価値と現代的な機能やデザインを共存させるための考え方や方法について、そしてそのデザインをいかに評価するか、改めて検討する必要があると言える。

今回のシンポジウムでは、2020年に改修が完成した保存再生の優れた事例、京都市京セラ美術館に着目する。歴史的建築物の何を残し、いかに守るか。そして何を变え、いかに創るか。改修設計者である青木淳氏と、戦後木造モダニズム建築である日土小学校の改修に深く関わり、青木氏とも親交の深い花田佳明氏を迎え、歴史的建築物に対する向き合い方やそのデザインのあり方について考えたい。

Program

趣旨説明: 田原幸夫 | 司会: 笠原一人 (京都工芸繊維大学助教)

第1部: 京都市京セラ美術館について
講演: 青木淳「京都市京セラ美術館の改修について」
批評: 花田佳明「京都市京セラ美術館の改修を考える」

第2部: 歴史的建築物の保存再生について
討論会: 青木淳+花田佳明+田原幸夫+笠原一人
視点1: 「何を残し、いかに守るか」
視点2: 「何を变え、いかに創るか」

Application

定員 | 300名 (入場無料 / 要申込)
申し込み | 氏名 / 所属 / メールアドレスを記載し、
メールにて右記の「申し込み専用アドレス」へ申し込み。
申し込み締め切り: 2021年2月27日(土) 17時
お問い合わせ: martinez@kit.ac.jp (担当: マルティネス)

申し込み専用アドレス |
hozonsaiseigaku@gmail.com

定員=300名
(要申込)

入場無料

申込締切=2/27[土]

17:00まで